

難波田城公園とともに 20年 ～来園する皆様にほっとしていただける公園を目指して～

市民学芸員 塩入 たま江



園内ガイドの様子

難波田城公園・資料館は、今年で開園・開館 20周年を迎えました。現在、富士見市には、水子貝塚資料館と難波田城資料館、二つの資料館があります。それらの前身は、昭和 48 年(1973)に富士見市上南畑に開館した富士見市立考古館です。

私は、昭和 56 年(1981)に、その考古館で開催された拓本講習会への参加と、その 2 年後に発足した考古館友の会の拓本部会への入会をきっかけに、考古館活動に関わるようになりました。

難波田城の開園・開館を 2 年後にひかえた平成 10 年、市民学芸員制度の提案について友の会で話し合うことになり検討委員会が発足しました。私もメンバーになり、城下町案内が行われている川越や、江戸東京博物館など、ボランティア活動を先進的に取り入れている町や施設の視察にも行きました。

平成 11 年(1999)に第 1 回目の市民学芸員養成講座が開催されました。そして、平成 12 年(2000)6 月に開園・開館と同時に第 1 期 27 名の市民学芸員活動がスタートしました。その際、私はガイドツアーの第 1 回目の担当になりました。ガイド解説の手引きを手に園内をご案内しましたのも懐かしい思い出です。



園内井戸脇花壇の様子

また、資料館と市民学芸員をつなぐ世話人となり、職員の方と定例会前に打ち合わせを行ったり、管外研修の企画立案も行いました。このような活動の一步を踏み出すことができたのも資料館関係者のご協力のおかげです。

今日に至るまで、様々な活動を難波田城公園でさせていただきました。

例えば平成 22 年(2010)には、市民学芸員と資料館で話し合い、第三土曜日の定例会の午後に囲炉裏の日を設けて、手づくり薬草茶での接待をしながら、昔の話を楽しむ機会としました。

また、このころから公園内に市民学芸員花壇を造り、春の七草・秋の七草など、季節の花で来園者に喜んでいただけるような活動もしてきました。

来園者が何度でも訪れ、楽しんで、ほっとしていただけるような場所を目指した 20 年でした。

来年度は、8 期目の市民学芸員が誕生する予定です。毎年実施してきた市民学芸員の管外研修やミニ講座などで、お互いの知識や教養を深める活動も続けていきたいと思っています。これからも、難波田城公園にぜひご来園ください。

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

難波田城公園・資料館20周年記念誌
「学びの広場 難波田城 地域・市民とともに20年」

本年、開館20周年を記念して、難波田城資料館とその協力団体の活動を記録し紹介した記念誌が発行されます。その内容は次の通りです。

第1章…公園と資料館の開設まで 第2章…施設の概要

第3章…施設の維持管理 第4章…資料の収集と保存

第5章…展示事業の展開 第6章…教育普及事業の展開

第7章…市民学芸員 第8章…難波田城公園活用推進協議会

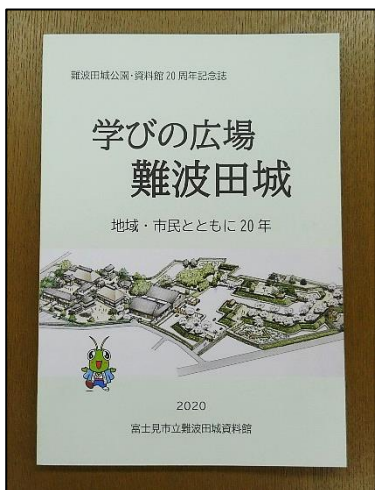
第9章…資料館利用・協力団体

市民学芸員広報担当では、3年前から活動記録集の作成を検討し、昨年、市民学芸員による編集会議をスタートさせました。

そして今年に入り、資料館で20周年記念事業の一環として記念誌の作成が決まり、市民学芸員の活動記録は、記念誌の第7章に掲載されることになりました。私たちは引き続き編集会議を重ね、市民学芸員自らの手で第7章の執筆を行ってききました。

また、記念誌全体でも各協力団体から集まった10名による編集委員会が組織され、全体の編集作業が進められました。

編集後記には、「編集の過程で、難波田城跡を残し、整備し、事業を興し、また各団体を立ち上げた先人たちの苦勞に接し、目指したところを学びました」と書かれています。そしてタイトルの「学びの広場



記念誌表紙

「難波田城」というフレーズは、それぞれが地域に学び、育てられた20年間の集大成の記録集であるとともに、新たな歴史の中でもその継承を望むメッセージであるといえます。

(古澤 立巳)

おもしろ・なつかし体験(67)

**開園・開館 20周年記念イベント
古民家寄席**

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

10月25日(日)に、旧大澤家住宅で、落語と太神楽を楽しむ古民家寄席が行われました。当日は“3密”にならないように、参加者30名の限定ではありましたが、秋の青空に恵まれた午後に古民家での古典芸能を楽しみました。

落語家は桂南なんさん。ご自身の経歴を語るような話のまくらで場の空気を和ませます。そして落語の演目は、子どもが暴露話をネタに親から小遣いをせしめていく「真田小僧」。もう一つの演目は水を売る商いの水屋と湯島天神の富くじにまつわるお話「水屋の富」でした。

来場者からは、ところどころに現代のエピソードも交えながらのお話が、江戸時代の情景をスクリー

ンに流れる映像で見ているようだったとの感想も聞かれました。

落語2席の間に、丸一小助さんと小崎さんによる太神楽。太鼓などで使うバチでの曲芸の他に、まりを用いたもの、茶碗を使うもの、そしてテレビでもよく見る傘を使ったものなど様々な芸が披露されました。そしてどれも福が舞い込む意味があると言われると、不思議と見ているこちらも真剣に。

また、この日の午前中は、二胡と篠笛によるコンサートも行われ、難波田城公園開園20周年にふさわしい秋の一日となりました。(鶴飼 貴子)



落語(上)と太神楽(右)

人の創ったもの★人の使ったもの

このコーナーでは、地元に関するものを紹介します。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

麦打ち台とクルリ棒

当館では、平成28年(2016)から、稲作の裏作で麦作を行っており、市民の参加を募って「麦づくり体験」としてしています(今年度はコロナ禍のため募集中止)。今回はその体験で重要な役割を果たしている麦打ち台、そしてクルリ棒を取り上げます。

麦の脱穀・脱粒

稲などと同様、麦も収穫後、種の部分を茎から取り外す脱穀をします。さらにノゲ(とげ)を取る作業を脱粒と呼びます。

麦打ち台



麦打ち台での作業の様子

当館には平成25年(2013)に志木市の方からいただいた麦打ち台があります。これは小麦の脱穀・脱粒に適したものです。小麦は大麦に比べ、わずかな衝撃で脱穀・脱粒できます。そのため、この麦打ち台に小麦の束を叩き付けることで、脱穀と同時に脱粒をあらかじめ終わらせられます。

これまでの麦づくり体験では、主に小麦を育ててきました。そのため、麦打ち台で脱穀・脱粒を行うことができました。

クルリ棒

他に麦を脱穀・脱粒するための道具としてはクルリ棒があります。クルリ棒は大麦や、麦打ち台で脱粒しきれなかった小麦の脱穀・脱粒に用い



クルリ棒

ました。大麦の場合、麦用の千歯扱きなどで穂を丸ごと落とし(脱穀)、クルリ棒で何度も穂を叩いて脱粒しました。この作業は「棒打ち」と呼ばれました。昨年度から麦づくり体験でも大麦の作付けを行うようになり、今後、使用を検討している道具です。

麦棒打歌

大正～昭和初期の南畑地域を描いた渋谷喜太郎さんのスケッチに麦の収穫後の様子を描いたものがあります(下図参照)。麦打ち台、クルリ棒をはじめ、どんな道具で麦の脱穀、脱粒を行っていたかがわかります。その中に、麦棒打歌の歌詞も書かれています。棒打ちは、作業歌を歌いながら、数人で調子をそろえて行ったのです。

麦づくり

地域の歴史を俯瞰してみると、食料としての麦の重要性が分かります。昭和20年代までの多くの人の普段の主食は、大麦を石臼で砕いたヒキワリや、大

麦を精白した後に加熱圧縮した押し麦を米に混ぜた麦飯でした。そして、ハレの日には小麦粉で、うどんやまんじゅうを作りました。しかし、その栽培、特に二毛作は日程が密なため大変な苦労がありました。そのため市内で二毛作は、現在ほとんど行われていません。

それを追体験するのが麦づくり体験です。再開の際には是非ご参加ください。

(田ノ上 和宏)



* * 冬のイベント予定 * *

◆開園・開館 20 周年記念イベント◆

●はたおり実演の見学

とき／12月12日(土) 午後1時～3時
 場所／旧大澤家住宅
 実演／ふじみ手織りの会

●ちよこっと体験「ハンカチの^{あいぞ}藍染め」

とき／12月12日(土)
 当日午後12時50分より受付開始
 ①午後1時～ ②午後1時30分～
 ③午後2時～ ④午後2時30分～
 場所／講座室 定員／各回3組12人(先着順)
 参加費／100円(材料代)
 協力／難波田城いきものがかり

●扇だこ作り実演の見学

とき／12月13日(日) 午後10時30分～正午
 午後1時30分～3時
 場所／講座室 定員／各20人(先着順)
 実演／富士見市扇だこ保存会

●つきたてのおもち販売

とき／12月20日(日) 午前11時～売切れまで
 価格／1パック200円 会場／旧金子家住宅
 主催／難波田城公園活用推進協議会

●ふるさと体験「正月飾りづくり」

とき／12月27日(日) 午後1時～3時
 会場／旧金子家住宅 対象／市内在住在勤の方
 定員／8人(申込順) 参加費／1,100円(材料代)
 指導／^{きつかわさつお}吉川節男氏
 申込み／12月1日(火)～17(木)午前9時から電話で

●正月飾り材料の予約販売

受付／12月1日(火)～17日(木)午前9時から電話で
 ※12月18日(金)以降のキャンセルはご遠慮
 ください
 引渡し／12月27日(日) 午前11時～午後3時
 旧金子家住宅
 費用／1組1,000円(ダイダイなし)

●古文書入門講座

市内に残された江戸時代の古文書を解説しながら、
 当時の歴史や文化を学びます(全3回)。
 とき／1月24日(日)・2月7日(日)・2月21日(日)
 の午後1時～3時
 会場／講座室 講師／山野健一(当館職員)
 定員／18人 参加費／無料 申込み／随時

●ふるさと体験「古民家で手作り味噌」

手作業の味噌づくりを体験し、自作の味噌(2kg分)
 を持ち帰ります。
 とき／2月27日(土) 午後1時～3時
 会場／旧金子家住宅 参加費／1,500円(材料代)
 定員／市内在住在勤の方15人
 (中学生以上。申込み順・初参加者優先)
 持ち物／エプロン、三角巾、容量3^{リットル}の容器
 指導／^{やぎしたはるよし}柳下春良氏
 申込み／2月2日(火)午前9時から電話で

ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

12月20日(日) つきたてのおもち
 1月24日(日) マユ玉だんご
 2月 お休み

田舎まんじゅう販売
 毎月第1、3日曜日10:30～
 ※手作りのため数には限りがあります。

年末年始の休館のお知らせ

資料館と古民家は12月28日(月)から1月4日(月)
 まで休館です。公園は無休で、午前9時から午後5
 時まで開園しています。

●新型コロナウイルスへの対応について

当館では、園内の定期的消毒などを行い対応して
 おります。また各種イベントも“3密”をさける形
 で実施しています。皆様方にはご不便おかけします
 がご理解、ご協力いただければ幸いです。
 今後も新型コロナウイルスの流行などにより、各種イ
 ベントは中止、延期になる場合があります。
 最新の情報は、資料館公式サイト(下記URL、QR
 コードからアクセス可)をご覧ください。



富士見市立難波田城資料館 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665
 〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1



https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時
 ◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)

資料館公式サイト